



【備考欄】

入学定員の変更

(改組前)

学校教育課程 入学定員 230人 ⇒  
地球環境課程 入学定員 50人 ⇒  
マルチメディア文化課程 入学定員 90人 ⇒  
国際共生社会課程 入学定員 90人 ⇒

(改組後)

学校教育課程 入学定員 230人  
人間文化課程 入学定員 150人

## 教育課程等の概要 (事前伺い)

(人間文化課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
【教養教育科目】															
教養教育科目	教養コア科目 (基礎科目／人文社会系)	心理学A	1・2・3・4前	2		○			1	1					
		心理学B	1・2・3・4前	2		○									
		日本の近代文学	1・2・3・4前	2		○			1						
		中国の古典文学	1・2・3・4前	2		○			1						
		日本の言語	1・2・3・4後	2		○				1					
		日本の古典文学	1・2・3・4前	2		○			1						
		日本語を教えよう	1・2・3・4前	2		○				1					
		臨床心理学入門	1・2・3・4前	2		○				1					
		教育・心理統計学	1・2・3・4後	2		○				1					
		地誌学概論	1・2・3・4前	2		○				1					
		ヨーロッパ近現代史	1・2・3・4後	2		○				1					
		日本前近代史	1・2・3・4後	2		○				1					
		戦争文化論	1・2・3・4後	2		○			1						
		倫理学	1・2・3・4前	2		○			1						
		哲学と論理	1・2・3・4前	2		○			1						
		哲学と人間	1・2・3・4前	2		○			1						
		合唱	1・2・3・4後	2		○			1						
		イタリア歌曲入門－歌詞をよむ－	1・2・3・4後	2		○				1					
		民族音楽学入門	1・2・3・4前	2		○					1				
		色彩論	1・2・3・4前	2		○				1					
		水彩画基礎技術(透明水彩)	1・2・3・4後	2		○				1					
		美術の見かた	1・2・3・4後	2		○				1					
		映画論	1・2・3・4前	2		○			1						
		現代芸術論	1・2・3・4後	2		○				1					
		音楽と自然	1・2・3・4後	2		○				1					
		基礎造形B	1・2・3・4前	2		○			1						
		伝統社会と近代社会	1・2・3・4前	2		○			1						
		逸脱行動の社会学	1・2・3・4後	2		○			1						
		現代社会論	1・2・3・4後	2		○				1					
		文化人類学の考え方	1・2・3・4前	2		○				1					
		現代の経済A	1・2・3・4前	2		○									兼2
		現代の経済B	1・2・3・4後	2		○									兼2
		現代政治(国際)	1・2・3・4前	2		○				1					
		現代政治(日本)	1・2・3・4後	2		○									兼1
		社会科学の方法	1・2・3・4前	2		○									兼1
		社会科学の歴史	1・2・3・4後	2		○									兼1
		社会科学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼1
		社会科学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼1
		法と人間	1・2・3・4後	2		○									兼1
		法学概論	1・2・3・4前	2		○									兼1
		日本国憲法	1・2・3・4 前・後	2		○			1						兼1
		現代と法	1・2・3・4後	2		○			1						
小計(42科目)		—	0	84	0	—		15	17	1	0	0	兼9		
教養コア科目 (基礎科目／自然科学系)	生涯教育体系としての自然科学	1・2・3・4後	2		○			1						兼1	
	地球と惑星の科学	1・2・3・4後	2		○										
	地球システム46億年	1・2・3・4前	2		○				1						
	生物の社会	1・2・3・4前	2		○			2						オムニバス	
	自然史科学概論A	1・2・3・4前	2		○				1						
	自然史科学概論B	1・2・3・4後	2		○				1						
	東京湾の環境科学	1・2・3・4前	2		○				1						
	相模湾の環境科学	1・2・3・4後	2		○				1						
	植物の科学	1・2・3・4前	2		○			1							
	生物学から見たヒト	1・2・3・4前	2		○			1							
	海洋と地球環境変動の科学	1・2・3・4前	2		○				1						
	基礎からの微積分	1・2・3・4 前・後	2		○			1							
	解析入門A	1・2・3・4前	2		○			1							
	解析入門B	1・2・3・4後	2		○			1							
線形代数A	1・2・3・4前	2		○				1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養コア科目 (基礎科目／自然科学系)	線形代数B	1・2・3・4後		2		○				1					兼1
	物質の世界	1・2・3・4前		2		○									
	現代社会と化学	1・2・3・4前		2		○				1					
	統計学Ⅰ-A	1・2・3・4前		2		○			1						
	統計学Ⅱ-A	1・2・3・4後		2		○			1						
	コンピュータで学ぶ統計学A	1・2・3・4前		2		○									兼1
	コンピュータで学ぶ統計学B	1・2・3・4後		2		○									兼1
	化学の世界A(物質観としての化学)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	化学の世界B(生活の化学)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	化学の世界C(環境の化学)	1・2・3・4後		2		○									兼1
	化学の世界D(生命の化学)	1・2・3・4後		2		○									兼1
	図形科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼4
	数理科学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○			1						
	数理科学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○			1						
	体験物理科学A	1・2・3・4前		2		○			1						兼1
	体験物理科学B	1・2・3・4後		2		○			1						兼1
	基礎から学ぶ化学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1
	物理の世界A	1・2・3・4前		2		○									兼1
	物理の世界B	1・2・3・4後		2		○									兼1
	エネルギー工学序論	1・2・3・4前		2		○			1	1					オムニバス
コンピュータシステムとコミュニケーション	1・2・3・4後		2		○			3	1					オムニバス	
応用地質学	1・2・3・4後		2		○			1							
先端機器分析入門	1・2・3・4前		2		○				1						
小計(38科目)		—	0	76	0	—		15	8	0	0	0	0	兼14	
教養教育科目	教育学(教育と人間)	1・2・3・4前・後		2		○			1	1					兼1
	衣生活の科学	1・2・3・4後		2		○				1					
	教育実践学	1・2・3・4後		2		○				1					兼4
	生涯発達論	1・2・3・4後		2		○				1					
	パリンガルへのロードマップ	1・2・3・4前		2		○			1						
	初めての特別支援教育	1・2・3・4前		2		○			1						
	情報と社会	1・2・3・4後		2		○			1						
	人と動物の関係学	1・2・3・4後		2		○			1						
	障害者支援ボランティア入門	1・2・3・4後		2		○			1						
	特別活動研究	1・2・3・4前		2		○			1						
	フラクタル	1・2・3・4後		2		○			1						
	生活と情報A	1・2・3・4後		2		○			1						
	進路・職業と教育	1・2・3・4前		2		○			1						
	消費社会と共育	1・2・3・4後		2		○			1						
	居住環境論	1・2・3・4後		2		○					1				
	木材と人間	1・2・3・4後		2		○				1					
	有限・離散の数学	1・2・3・4前		2		○				1					
	おいしさの科学	1・2・3・4前		2		○			1						
	地域連携と都市再生B	1・2・3・4前		2		○			1						兼1
	現代の物流経営	1・2・3・4後		2		○			1						
	企業・環境・人間	1・2・3・4前		2		○			1						
	エネルギーと環境	1・2・3・4前		2		○			1						
	安全・環境と社会	1・2・3・4前		2		○			2	1					オムニバス
	応用気象学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	科学技術史	1・2・3・4後		2		○									兼1
	海事技術史	1・2・3・4前		2		○									兼1
	ものの強さと強さのしくみ	1・2・3・4前		2		○			2						
	生態工学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	建築の環境と防災	1・2・3・4後		2		○				1					
地域連携と都市再生A	1・2・3・4後		2		○			1	1					兼1	
国際理解1(異文化間コミュニケーション論)	1・2・3・4前		2		○			1							
国際理解2(日本語教育学概論)	1・2・3・4後		2		○			1							
国際理解3(アラブの言語と文化)	1・2・3・4後		2		○			1							
国際理解5(日米関係史)	1・2・3・4後		2		○				1						
国際理解6(国際日本学入門)	1・2・3・4後		2		○			1							
国際理解7(英語を媒介語とした日本語の教え方)	1・2・3・4前		2		○			1							
国際理解9(日本占領史)	1・2・3・4前		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	(現現代科目)	文化資源のリサイクル	1・2・3・4前	2			○			1							
		情報ネットワークシステム入門	1・2・3・4後	2			○			1							
		技術と経営：会社とは	1・2・3・4前	2			○			1							
		社会の変化と自己啓発A	1・2・3・4前	2			○					1					
		社会の変化と自己啓発B	1・2・3・4後	2			○					1					
		環境リスクとつきあう	1・2・3・4前	2			○			1							
		地域課題実習Ⅰ	1・2・3・4休	1			○				1						
		地域課題実習Ⅱ	1・2・3・4休	1			○				1						
		小計(45科目)	—	0	88	0			—	29	11	2	0	0		兼11	
	教養コア科目(総合科目)	学校教育最前線	1・2・3・4前	2			○				1						
		大学とは何か	1・2・3・4後	2			○				1						
		日本の社会と文化	1・2・3・4後	2			○				1						
		観光と社会	1・2・3・4前	2			○				1						
		歴史と現在	1・2・3・4前	2			○				1						
		地球環境への招待	1・2・3・4前	2			○				1						
		都市/郊外文化	1・2・3・4前	2			○				1						
		持続的成長のための制度と政策	1・2・3・4前	2			○			1							
		個人と社会の意思決定	1・2・3・4後	2			○				1						
		経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	1・2・3・4前	2			○			1							
		ベンチャーから学ぶマネジメント	1・2・3・4後	2			○			1							
アカデミック・トークA		1・2・3・4前	2			○			1								
アカデミック・トークB		1・2・3・4前	2			○			3	1					オムニバス		
アカデミック・トークC		1・2・3・4前	2			○			1						オムニバス		
アカデミック・トークD		1・2・3・4前	2			○			2	1					オムニバス		
教養としての先端物質科学		1・2・3・4前	2			○									オムニバス		
海洋工学と社会		1・2・3・4後	2			○				1							
機械工学と社会とのかかわりあい		1・2・3・4前	2			○			1		2				オムニバス		
電子情報工学と社会		1・2・3・4後	2			○				1					オムニバス		
都市と建築	1・2・3・4後	2			○			1						オムニバス			
土木工学と社会	1・2・3・4前	2			○			1						オムニバス			
物質工学と社会	1・2・3・4前	2			○			1						オムニバス			
環境をめぐる諸問題	1・2・3・4後	2			○				1					オムニバス			
システム・エンジニアリング	1・2・3・4前	2			○			1						オムニバス			
情報通信技術が培う近未来医療	1・2・3・4後	2			○			2						オムニバス			
小計(25科目)	—	0	50	0			—	16	14	2	0	0		兼0			
情報リテ	コンピューティング	1前・後	2				○		3	3	1				兼1		
	小計(1科目)	—	0	2	0		—	3	3	1	0	0		兼1			
外国語科目	英語実習1S	1前・後	1					○							兼7		
	英語実習1W	1前・後	1					○	1	2	1				兼5		
	英語実習1LR前期	1前	1					○		3					兼3		
	英語実習1LR後期	1後	1					○		3					兼4		
	英語演習LR	2前	2				○		1		1				兼1		
	英語演習SW	2後	2				○				1						
	英語演習	2・3・4前・後	2				○		2	5	1						
	ドイツ語実習1	1・2・3・4前・後	1					○	2	1					兼9		
	ドイツ語実習2	1・2・3・4前・後	1					○	2	1					兼9		
	ドイツ語実習1(会話)	1・2・3・4前・後	1					○							兼1		
	ドイツ語実習2(会話)	1・2・3・4前・後	1					○							兼1		
	ドイツ語演習	2・3・4前・後	2				○		2								
	フランス語実習1	1・2・3・4前・後	1					○	1	2					兼3		
	フランス語実習2	1・2・3・4前・後	1					○	1	2					兼3		
	フランス語実習1(会話)	1・2・3・4前	1					○							兼1		
	フランス語実習2(会話)	1・2・3・4後	1					○							兼1		
	フランス語演習	2・3・4前・後	2				○			2					兼2		
	中国語実習1	1・2・3・4前	1					○	1	2					兼15		
	中国語実習2	1・2・3・4後	1					○	1	2					兼15		
	中国語演習	2・3・4前・後	2				○		2	2					兼6		
ロシア語実習1	1・2・3・4前	1					○		1					兼3			
ロシア語実習2	1・2・3・4後	1					○		1					兼4			
ロシア語演習	2・3・4前・後	2				○			1					兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	外国語科目	朝鮮語実習 1	1・2・3・4前	1					○		1						兼2	
		朝鮮語実習 2	1・2・3・4後	1					○		1						兼3	
		朝鮮語演習	2・3・4前・後	2					○		1						兼2	
		イスパニア語実習 1	1・2・3・4前	1						○							兼2	
		イスパニア語実習 2	1・2・3・4後	1						○							兼2	
		イスパニア語演習	2・3・4前・後	2						○							兼2	
		ギリシャ語実習	2・3・4前・後	1						○							兼1	
		ラテン語実習	2・3・4前・後	1						○							兼1	
	小計 (31科目)	—	—	0	40	0			—		9	15	3	0	0		兼54	
	健康スポーツ科目	健康スポーツ演習 A	1前後		2				○		3	1						※実習
		健康スポーツ演習 B	1・2・3・4前・後		2				○		6	2					兼13	※実習
		小計 (2科目)	—	—	0	4	0		—		8	3	0	0	0		兼13	
	習基礎科目	基礎演習	1前		2				○		12	7	1					兼1
		小計 (1科目)	—	—	0	2	0		—		12	7	1	0	0		兼1	
	日本語・日本事情科目	日本事情 A	1・2・3・4前		2				○		1							外国人留学生のみ履修可。 ・日本語科目は「第1外国語(2ヶ国語)」に代替可。 ・日本語事情科目は教養コア科目「現代科目」に代替可。
		日本事情 B	1・2・3・4後		2				○				1					
		日本事情 C	1・2・3・4後		2				○		1							
		日本事情 D	1・2・3・4前		2				○			1						
		日本語中級 A	1前		1					○							兼1	
		日本語中級 B	1前		1					○			1					
		日本語中級 C	1前		1					○		1					兼1	
		日本語中級 D	1前		1					○				1				
		日本語中級 E	1前		1					○				1				
		日本語中級 F	1前		1					○							兼1	
		日本語上級 A	1・2・3・4前		1					○		1						
		日本語上級 B	1・2・3・4後		1					○			1					
		日本語上級 C	1・2・3・4前		1					○		1						
日本語上級 D		1・2・3・4前		1					○				1					
日本語上級 E		1・2・3・4後		1					○					1		兼1		
日本語上級 F		1・2・3・4後		1					○		1							
日本語上級 H		1・2・3・4前		1					○							兼1		
日本語演習 A	1・2・3・4後		2					○			1							
日本語演習 E	1・2・3・4後		2					○		1								
日本語演習 F	1・2・3・4前		2					○				1						
小計 (20科目)	—	—	0	27	0			—		3	3	1	0	0		兼5		
【専門教育科目】																		
専門教育科目	必修基礎科目	人間文化基礎論 I A	1前	2				○		1	2						オムニバス	
		人間文化基礎論 I B	1前	2				○		1	2						オムニバス	
		人間文化基礎論 II A (都市文化論)	1後	2					○	2	2						オムニバス	
		人間文化基礎論 II B (都市社会の現在)	1後	2					○	2	2						オムニバス	
		文化リテラシー基礎論	1前	2					○		3							
	小計 (5科目)	—	—	10	0	0		—		6	10	0	0	0		0	—	
	課程共通 選択必修科目	課程間連携共通科目群	社会分析基礎論	2・3・4前	2				○		2	2						オムニバス
			文化マネジメント基礎論	2・3・4後	2				○				1					兼1 学校教育課程と連携して開講
			情報基礎論	2・3・4前	2				○									
			映像文化概論	2・3・4後	2				○		1							
			音響文化概論	2・3・4	2				○		1							
			サブカルチャー概論	2・3・4	2				○			1						
			比較思想概論	2・3・4前	2				○		1							
			歴史文化概論	2・3・4前	2				○			1						
			社会学概論	2・3・4前	2				○		1							
			国際開発支援概論	2・3・4後	2				○		1							
			マスコミュニケーション概論	2・3・4前	2				○				1					
学外活動・学外学習			2・3・4前・後	2				○		1								
特別支援基礎論	2・3・4前	2				○		1										
近現代日本社会文化論	2・3・4後	2				○		1										
日本語教育基礎論	2・3・4前	2				○					1							
小計 (15科目)	—	—	0	30	0		—		10	5	1	0	0		兼1	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
課程共通	スタジオ科目	スタジオⅠ（入門）	1後	2				○		8	7	1						
		スタジオⅡ（基礎）	2前	2				○		8	7	1						
		スタジオⅢ（応用）	2後	2				○		8	7	1						
		スタジオⅣ（創造的実践）	3前	2				○		8	7	1						
		スタジオⅤ（創造的実践）	3後	2				○		8	7	1						
	小計（5科目）		-	10	0	0	-			8	7	1	0	0	兼0	-		
	専門教育科目	芸術文化コース	選択必修科目	芸術文化論ⅠA（現代アート系）	2・3・4前	2			○		1							博物館情報・メディア論との読替・博物館学芸員資格コース登録者は必修
				芸術文化論ⅠB（現代アート系）	2・3・4後	2			○		1							
				芸術文化論ⅠC（映像音響系）	2・3・4前	2			○			1						
				芸術文化論ⅠD（文芸批評系）	2・3・4後	2			○			1						
				芸術文化論ⅡA（文芸批評系）	3・4前	2			○			1						
			芸術文化論ⅡB（映像音響系）	3・4後	2			○			1							
			現代文化論A（情報文化系）	2・3・4前	2			○			1							
			現代文化論B（情報文化系）	2・3・4後	2			○			1							
			現代文化論C（サブカルチャー系）	2・3・4前	2			○				1						
			現代文化論D（サブカルチャー系）	2・3・4後	2			○				1						
		思想と文化ⅠA（現代思想入門）	2・3・4前	2			○			1								
思想と文化ⅠB（現代思想入門）		2・3・4後	2			○			1									
思想と文化ⅡA（現代思想各論）		3・4前	2			○				1								
思想と文化ⅡB（現代思想各論）		3・4後	2			○				1								
文化マネジメント論Ⅰ		2・3・4前	2				○							兼1	博物館経営論との読替・博物館学芸員資格コース登録者は必修			
文化マネジメント論Ⅱ		3・4後	2				○				1							
博物館資料保存論		2, 3, 4前	2				○								兼1	博物館学芸員資格コース登録者は必修		
博物館展示論	2, 3, 4後	2				○			1						博物館学芸員資格コース登録者は必修			
博物館教育論	2, 3, 4前	2				○								兼1	博物館学芸員資格コース登録者は必修			
博物館実習	4	3						○	1						博物館学芸員資格コース登録者のみ履修可			
小計（20科目）		-	0	41	0	-			4	3	1	0	0	兼3	-			
社会文化コース	選択必修科目	文化学の技法ⅠA（西洋古典哲学）	2・3・4後	2			○			1								
		文化学の技法ⅠB（西洋近代哲学）	2・3・4前	2			○			1								
		文化学の技法ⅠC（哲学的思考）	2・3・4後	2			○			1								
		文化学の技法ⅠD（近代思想）	2・3・4前	2			○				1							
		文化学の技法ⅡA（古典思想）	3・4前	2			○				1							
		文化学の技法ⅡB（近代思想）	3・4後	2			○			1								
		多元文化論ⅠA（社会経済史）	2・3・4前	2			○			1								
		多元文化論ⅠB（政治文化史）	2・3・4後	2			○				1							
		多元文化論ⅠC（社会文化史）	2・3・4前	2			○				1							
		多元文化論ⅡA（社会経済史）	3・4前	2			○			1								
		多元文化論ⅡB（政治文化史）	3・4後	2			○				1							
		共生社会論ⅠA（理論社会学）	2・3・4後	2			○			1								
		共生社会論ⅠB（文化人類学）	2・3・4後	2			○				1							
		共生社会論ⅠC（ジェンダー論）	2・3・4前	2			○			1								
		共生社会論ⅠD（社会生活論）	2・3・4後	2			○			1								
		共生社会論ⅡA（比較社会学）	3・4後	2			○				1							
		共生社会論ⅡB（国際社会学）	3・4前	2			○				1							
国際学ⅠA（国際日本学）	2・3・4前	2			○			1										
国際学ⅠB（政治学）	2・3・4前	2			○				1									
国際学ⅠC（経済開発論）	2・3・4後	2			○				1									
国際学ⅡA（国際日本学）	3・4前	2			○				1									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	社会文化コース 選択必修科目	国際学ⅡB（国際関係論）	3・4前	2			○			1								
		グローバル化と地域社会Ⅰ	2・3・4後	2			○			1								
		グローバル化と地域社会Ⅱ	2・3・4後	2			○			1								
		異文化理解の技法ⅠA（言語と地域研究）	2・3・4後	2			○			1								
		異文化理解の技法ⅠB（言語と地域研究）	2・3・4後	2			○			1								
		異文化理解の技法ⅠC（言語と地域研究）	2・3・4後	2			○			1								
		異文化理解の技法ⅡA（言語と地域研究）	3・4前	2			○			1								
		異文化理解の技法ⅡB（言語と地域研究）	3・4前	2			○			1								
		社会分析の技法ⅠA	2・3・4前	2			○											
		社会分析の技法ⅠB	2・3・4後	2			○											
		社会分析の技法ⅠC	2・3・4後	2			○											
		社会分析の技法ⅡA	3・4前	2			○			1								
		社会分析の技法ⅡB	3・4前	2			○			1								
		日本語音声学	2・3・4前	2			○			1								
		言語学基礎講義	2・3・4後	2			○			1								
		小計（36科目）	—	—	0	72	0				9	11	0	0	0	0	兼4	—
		卒業研究関連科目	卒業研究関連科目	演習Ⅰ	3前	2				○	8	7	1					
演習Ⅱ	3後			2				○	8	7	1							
課題演習Ⅰ	4前			2				○	8	7	1							
課題演習Ⅱ	4後			2				○	8	7	1							
卒業研究	4通			4				○	8	7	1							
小計（5科目）	—			—	12	0	0			8	7	1	0	0	0	0	—	
合計（291科目）				32	516	0			123	94	12	0	0	0	兼116	—		

学位又は称号	学士(教養)	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係, 文学関係, 社会学関係, 美術関係													
--------	--------	-----------	------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

(a) 教育の理念・目的

[設置の背景]

横浜国立大学は全国第2位の人口を抱える都市、横浜に立地している。横浜市は、開港以来、いち早く異文化を受け入れてきた。山の手には欧米文化、全国最大の中華街には中国文化など、多元文化空間を早くから抱え込んで成長してきた。かつての港湾・土木労働者が多く集中する寿町、在日コリアン集住地域、日ノ出町・黄金町、さらに朝鮮半島出身者が戦後集住した地域に他のアジア諸地域出身者がともに暮らすようになった川崎市桜本地区、そして在校生の7割以上が外国に繋がる児童という小学校もまた、横浜に存在する。さまざまな格差、性差、言語、そして異なる国籍、という多様な人びとが、モザイクないしはサラダボールのようにして暮らす空間が都市横浜である。

一方、横浜市は幕末の開港により主に北米に向けた生糸輸出貿易港として誕生し、海運が経済成長の原動力であったが、今日では空輸に主たる貿易額の地位が移ることによって、街の活力の衰えもまた指摘できる。そこで横浜市では芸術振興と都市再開発を目的に「創造都市」、「映像文化都市」などさまざまな実験的施策を推進している。横浜トリエンナーレという現代美術中心の国内有数の美術展、クリームという名称で親しまれる横浜映像祭といったイベントばかりではなく、横浜旧市街にある多くの歴史的建造物を芸術施設にリノベーションする作業も横浜で始まり、以後、日本各地にこの種のリノベーションが展開され始めた。旧日本郵船倉庫に本拠を置くBankART1929は、日本有数の現代アートの基地に成長しているし、旧横浜銀行集会所はヨコハマ・クリエイティブ・シティ・センター(YCC)として横浜の「創造都市」の入口になっている。前述の黄金町、日ノ出町地区でも、旧飲食店街をアーティストたちのアトリエとして再生する試みが始まっている。

こうした横浜の歴史と現在を背景に、多様な文化的・社会的要請のもと、将来にわたって芸術文化、人間社会の持続的な発展に貢献できる人材への需要、また、そのような高等教育への要求が年々高まっている。

なかでも、現代の文化・社会の抱える複雑な仕組みに対する広範な知識と理解力、問題の発見の能力、対話と折衝の能力、さらに解決の手段を探る知的構想力、企画・立案・説明の能力など、人びとの多様性、社会の多元性を前提に、物事の本質を見極めて行動できる人材、多様な人々の共感を得られる提案と発信能力を有する人材の養成は、急務である。

[全学的な再編とカリキュラムの集約化]

上記のような現代的な人材需要の浮上を背景に、全学的な学部・大学院の再編を契機として、これまでのマルチメディア文化課程と国際共生社会課程を改編して教育内容を大きく変えるとともに、同じ学部にある学校教育課程とも、より強い関係で結ばれるような学部教育組織を設置する必要性が生じた。

従来、教育人間科学部では文理融合型の課程としてマルチメディア文化課程が情報科学、認知科学、文化コンテンツの理解・創造などを中心に教育し、人文社会系の課程として国際共生社会課程が多文化共生、異文化理解などを中心に教育し、それぞれに個性豊かな人材を送り出してきた。そして今、上記の立地の特長をより活かしながら、現代社会に必要な人材をより集約的に養成するための新しい教育プログラムが必要である。そのため、これまでは別々の課程として行っていた教育を、一つの課程として再編統合するとともに、1学年90名+90名=180名の定員であったものを、教員およびカリキュラムを精選することで1学年150名へと縮小し、1年次において高等学校とは異なる知識教養であるグローバルに広がる世界文化状況や情報社会のもたらしたメディアの現在等を含む、人間文化についての基礎を必修科目である「人間文化基礎論ⅠA」「人間文化基礎論ⅠB」と「文化リテラシー基礎論」で学び、スキルとしての文化リテラシーを「文化リテラシー基礎論」で獲得した上で、学生の学びたい事柄に応じて2年次から2コース(芸術文化コース、社会文化コース)に分けて教育することにする。これによって、密度の高い、そして修得するスキルのより明確な、そして学生たちの修学目的の明確化が図られる。

[これまでの教育研究上の取組みの発展的継承]

人間文化課程構想に至るまで、国際共生社会課程とマルチメディア文化課程では以下のような教育研究上の取組みを実施してきた。まず、平成17・18年度においては、横浜国立大学学長裁量経費の採択により、「差異と共生」プロジェクトを実施し、国際共生社会課程が中心となって、共生社会実現と地域社会との連携を深め、また学生企画プロジェクトを募集し、学生からの企画提案、学生主体の実施運営による講演会、上映会、パネル展示会などを実施し、共同研究成果として数冊の著書も公刊された。また、21年度においては、教員と学生によるグローバル・スタディーズ実践ツアーを実施し、アメリカ・ドイツ・フィリピン・ロシアなどの諸地域を訪問し、事前学習と報告書作成により、大きな教育的効果を得られた。

他方、文部科学省「平成21年度大学教育改善のための戦略的都市連携支援プログラム」には、「横浜文化創造都市スクールを核とした都市デザイン/都市文化の担い手事業」が採択され、そこではマルチメディア文化課程メディア研究講座の教員を中心に広く他大学の都市デザイン/都市文化の専門家も招いて「横浜文化創造都市スクール」が開設され、都市についての基礎的な科目群を開講し、運営されている。1928年竣工の旧帝倉倉庫事務所ビルに本拠を置く「横浜文化創造都市スクール」(通称「北仲スクール」)は、多様な基礎科目によっても知名度を増しているが、さらに、サブカルチャーを主題にした連続公開講座「サブカルニッポンのアーキテクチャ」、ワークショップ科目として開講した、黄金町の映画館ジャック&ベッティを借り切った開催した若手映画作家の連続上映会「未来の巨匠たち」シリーズや、川崎の巨大な体育館で開催された現代美術家・椿昇展等、大規模な文化発信の基地にもなり、多くの関係者に認知されている。

このような諸般のプロジェクトやプログラムの実施によって得られた教育上の方法的成果と研究上の知見を基礎として、それらの実施母体でもあった既存の2課程を統合することで、そして、すでに大学院の横浜建築都市スクール(Y-GSA)で実践され、実務的教養、リーダーシップ、協調性の涵養を図ることのできる「スタジオ式教育」を学部1年次後期から導入することで、教育研究をさらに発展させ、広く発信する目的をもって、人間文化課程へと改編し、カリキュラムを整備するものである。

#### [新たな人間科学の可能性を視野に入れた人間文化課程]

人間文化課程の必要性は、本学が設置されている横浜市の立地からも、本学の組織の改編の必要性からも説明できるが、それ以上に、人間文化課程が問われるのは、人間科学一般の大きな変容を背景にした新たな教育組織の必要性である。

70年代のフランスでは、それまでの人間諸科学——文学、経済学、哲学、社会学など、それぞれ蛸壺化した学問領域が、再審に付され、哲学と文学、芸術学と精神分析学など、ある一分野の専門的な知識を深化させるのではなく、「隣接した別の領域」と融合することで、新たな視点がそれぞれの領域で発見されるようになる。また同時代のイギリスでは一つの文化現象に様々な分野の知が動員され、その現象の解説が行われるようになる。カルチュラル・スタディーズの誕生である。人間文化課程が、こうした人文知の再構築の影響下にあるのは当然である。同時代の都市における様々な人間たちが作り出す芸術文化、そして彼らの生み出す社会にある問題の解決に当たるためには、ひとつに固定化した学問領域の中に留まることなく、ある現象に着目するときにも常に「隣接諸科学」との協働によって問題を把握する方法をとることになる。そうした人間諸科学全般の大きな変容の中で、新たな問題把握能力や発信能力を準備するの、人間文化課程の目的になる。

人間諸科学の変容を背景として、さらに、前述した設置の背景にある横浜市という本学が立地している条件を考慮すると人間文化課程には次の2コースを設置するのが適切である。本学が立地する横浜市において、旺盛な活動を示している芸術文化の創造を支援し、それを支える人材養成を目的とした「芸術文化コース」と、横浜においてはその立地の条件からすでにその問題が顕在化しており、将来において日本各都市で同種の問題に直面することになるはずであり、多元文化を背景にした社会における様々な問題を分析し、それを解決する能力を持つ人材の養成を目的とした「社会文化コース」である。

#### (b) 教育人間科学部に設置する理由

教育人間科学部に併置される課程として学校教育課程がある。

教員養成を目的とする学校教育課程では、人間文化課程が提供する社会分析基礎論、サブカルチャー概論、国際開発支援概論等の授業の内容に当たる部分は、教育科学、教科教育学、教科内容学を中心として構成される教員養成プログラムでは必ずしも十分に担保されていない。だが、現代社会の中に存在する学校の教員にとって、同時代の人間文化を構成するこれらの科目を履修する可能性を与えることは、未来の教員に大いに資するものがあると同時に、本学部から学校教育に携わる人材を送り出すときの特長になり得る資質を与えることになる。

現代的な都市社会の芸術文化創造とその社会における分析・問題解決能力を養成する人間文化課程の学生にとって、学外活動・学外学習、特別支援基礎論など学校教育課程が提供する科目は、現代の社会で多様な創造活動を行う際、必要不可欠なものであり、人間文化課程の学生にとっても、学校教育課程が提供する科目は魅力あるものに映る。

そして2年次生を対象にして、学校教育、人間文化の両課程が連携して課程間連携共通科目群を運営することで、2つの課程は、よりいっそう相互補完的な関係になる。日本語教育、特別支援教育など、2つの課程にまたがって開講される科目は、社会の持続的発展と社会的マイノリティへの理解と協働への途を開くものである。課程間連携共通科目群は、2つの課程を架橋する役割ばかりではなく、1年次において導入された人間文化の基礎を学習する必修基礎科目で触れられた人間文化の諸分野をより深化させる方向で学習する諸々の概論という役割も持っている。

つまり、2つの課程が同じ学部の中に存在することで、次世代の人間文化・社会の持続的発展を実践的に支えていくための教育資源をより効率的に活用することができ、学校・地域さらに社会が協働して社会の教育力を支えることに寄与することになる。

#### (c) 養成する人材

人間文化課程では、現代の社会・文化の抱える複雑な課題の発見の能力、対話と解決提案の能力、文化・社会の持続的な発展のための企画立案と運営の能力、さらに異文化の間に立って媒介者として双方向的に活動・折衝できる能力などを備えた人材の養成を目的とする。

#### ○芸術文化コース

##### [基本的な考え方、および到達目標]

高校では、ほとんど触れられないことのない芸術諸分野の現在の状況についての知識と理解から出発(1年次)し、日本国内の社会問題を考える際に不可欠であるばかりでなく国外からの注目を集めるサブカルチャーを含めた文芸、映像、音響、現代アートの分野について、その歴史と現在についての十全な知識を与え(2年次から3年次)、さらに、スタジオ科目(1年次から3年次)を通じて、それらの創造の現場の傍らに立ちつつ、クリエイターをめざす者、作品の媒介者としてキュレーション、批評活動・編集活動をめざす者、公共の側からそれら創造活動の支援を行う道を選ぶ者などの養成が、芸術文化コースの人材養成の基本的な考え方である。

その基本的な考え方に沿えば、芸術文化コースの教育に主に携わることになる旧メディア研究講座の教員には、その経験や成果においても、誇れるべきものがある。マルチメディア文化課程時代から、横浜芸術文化振興財団の資金と援助を受け、BankART Studio NYKで開催した「Re: DESIGN展」、東京芸大映像研究科と協働した、新宿のシネマコンプレックス、バルト9における学生映像展、劇作家・俳優・元メディア研究講座教授の唐十郎に師事し現在も展開中の「劇団唐ゼミ」、そして数々の「北仲スクール」における基礎科目、ワークショップの経験の延長線上に、芸術文化コースの人材養成が存在している。すでに優れたキュレーター、映画作家、編集者などを輩出しているが、人間文化課程では、当初から実践的な科目であるスタジオ科目が準備されているため、従来、単位化するのが困難だった上記のような実績を教育プログラムとして実践することで、履修者に大きなモチベーションを与えることができる。

またBankARTやYCCを代表とする横浜の各所に点在するアート・イニシアティブによる街づくりの実践も、具体的にスタジオ科目の中に採り入れたり、3年次から開講する各教員の演習科目の中に位置づけることが可能である。そうすることで、従来の理論的には充実していた教育体系の上に、より強い実践性を加味して、学生たちが立てた問題が、現実の都市の中で別の問題に遭遇する姿や、それらの問題が解決する様を实地で学習することができるようになる。もちろん、そのような授業における体験は、全国に先駆けてアート・イニシアティブによる街づくり(芸術活動を、荒廃した地域における街づくりの原動力にしていくこと)を実践している横浜市ばかりに役立つわけではなく、各地の美術館や地方公共団体の文化担当部局からも強い期待を寄せられている。

それらの強い期待に十全に応えるためには、まず何よりも、現代の芸術文化についての深い知識を備える必要があり、その知識を多様な芸術活動の中にとどように活かしていくのかという方法が必要であり、実践の経験が何より重要である。芸術文化コースには、現代芸術各分野についての授業科目を持ち、その背景にある思想についての授業科目もあり、実践的なノウハウを教える文化マネジメントの授業もある。そしてマルチメディア文化課程や「北仲スクール」で蓄積したノウハウを活かして、芸術文化コースからは、芸術文化の先端的な知識とそれらを実践的にマネジメントできる基礎的な能力を身に着けた人材を養成することを到達目標としている。

## ○社会文化コース

[基本的な考え方、および到達目標]

人間の頻繁な移動がおこなわれ文明の混交が進んでゆく中で、グローバルであると同時に、これに對置されるローカルな視座の双方を具えた「グローバル」な人材の育成こそが将来的な社会のニーズとしてクローズアップされている。グローバルな普遍性に目を向けながら、ローカルな特殊性への意識を涵養する人材養成の基本姿勢は、世界という文脈の中で日本を客観的に捉える視座を養うとともに、新たな見地から日本を世界に向けて発信しようとする際に重要性を持つからである。

こうした基本姿勢に則り、本コースにおいては、

- ①地球社会創造:グローバルな視座の中で複雑多様化する世界の現状について学び、それらの現状に対する連帯を養い、国際社会における新たな交流と協力へのノウハウを身に付けること。
- ②地域社会創造:世界の中の日本というローカルな側面に光を当てつつ、地域におけるグローバル化の諸問題を背景にした地域社会のあり方について学ぶこと。
- ③文化コミュニケーション:グローバルとローカルのせめぎあいを文化の側面から捉え、多文化共生といった視点を涵養すること。
- ④生きる力:自己実現やイノベーションに優れた能力を発揮すること。

という4つの能力を身に着けた人材を養成する。

本コースの到達目標は、国際都市横浜に立地する大学という特徴を十全に活用しつつ、グローバルかつローカルな視座を養い、それを実践的な行動力へと展開できることである。グローバルかつローカルな視座とは、現代社会に具わった内容やその意義を理解する方法であり、それを哲学・思想、歴史学、社会学、国際学に関する知識と外国語・日本語の実践的運用能力の涵養を介して身に着けさせることを目標とする。

そのために海外提携校や横浜における国際高等教育機関との交流を行い、横浜の国際化に関するフィールドワークや各種国際機関との提携等に基づく企画実践を「スタジオ科目」を通じて行っていく。その結果、問題を知覚し認識しながら、それらを課題として設定し分析できる力を養い、課題を解決するためのプランを創出し、それを的確に表現する力＝表現スキルを持ち、それをフィードバックして再検証できる能力を獲得することができる。同時に、実践的技能資格、即ち博物館学芸員ならびに社会調査士の資格や日本語教員資格の取得の道がある。

### (d) 課程の名称及び当該名称とする理由

教育人間科学部とは、学校教育と人間諸科学を総合的に連携させ、人間諸科学の現代的素養を持った教員を養成し、同時に、人間諸科学の現代的な成果を現代文化の持つ多様な問題に応用しながら、現代の社会の持つ問題を解決に導き、豊かな芸術文化の創造によって社会の持続的な発展をめざす人材を養成する目的を持つ。従って課程名称は「人間文化課程」がふさわしい。そのような条件の下に、教育人間科学部には、教員養成を目的とした「学校教育課程」と現代社会における問題解決と創造活動を支援する「社会文化コース」と「芸術文化コース」を持つ「人間文化課程」の2課程が併置される。教育人間科学部での教育のうち、「学校教育課程」では教員養成を、「人間文化課程」では、人間文化の視点から人間諸科学の人文科学分野を担うことになる。もちろん、両者には密接な関係があり「人間文化課程」の豊かで先端的な成果が、「学校教育課程」の明瞭な目的を持った人材養成に活かされ、「学校教育課程」で長年に亘って培ってきた教育の視点が「人間文化課程」の人材養成に大きく資するからである。

## II 教育課程編成の考え方と特色

### (a) 基本構成と特色

[体系的・段階的なカリキュラム設定とスタジオ科目による実践的トレーニング]

人間文化課程の授業科目名は、次のような原則で付けられている。

- 〇概論・基礎論:基本技能や基本的な知識の習得についての科目
- 〇I:基本的な知識から内容を深めていく科目
- 〇II:高度な知識および実践的、応用的な内容に触れる科目
- 〇A、○〇B:同程度だが、別ジャンルや種類を扱う科目

### ① 体系的・段階的に区分された選択必修科目による、基礎的技能と知識の育成

#### ○芸術文化コース

##### 「芸術文化論」I A～II B

現代アート of 諸問題の理解、映像音響芸術、文芸についての現代的な知識と状況を理解し、将来、いかなる方向性が可能なのかを思考する力を養う。

##### 「現代文化論」A～D

現代文化についての理論的な局面についての理解を深め、現代文化の大きな部分を占めているサブカルチャーの多様な局面について知識を与える。

##### 「思想と文化」I A～II B

芸術文化の根本にある思想について一般的な理解を深めた後に、現代思想を彩る多くの思想家についての文章に触れる。

##### 「文化マネジメント論」I II

横浜で具体的に行われているアートマネジメントの実践について解説し、実習の中にどんなアートマネジメントが可能なのかを考える。

## ○社会文化コース

### 「文化学の技法」I A～II B

文化・社会が多様化し、複雑な諸問題が生じている現状の中で、それらを解決してゆくための基本的視座を与え、将来にわたる文化・社会の持続的発展に貢献しうる人材を育成することを念頭に、人類がこれまで産み出してきた哲学的、思想的知見を用いて、人間存在の本質について批判的に思考すると共に、来るべき社会について構想しうる力を養う。文化学の技法 I において基礎論、文化学の技法 II において応用論を学ぶ。

### 「多元文化論」I A～II B

多様な文化的背景を持つ人々の出会いと混交が急速に進展する事態を理解するために、これまでの世界の歴史に見られた多様な経験を生かす力を養うと共に、国際社会における新たな交流と協力へと到るための道筋を構想し、様々な文化間を媒介するための能力を涵養する。多元文化論 I において基礎論、多元文化論 II において応用論を学ぶ。

### 「共生社会論」I A～II B

多様性を増しつつある社会の現状を認識する視座を学ぶと共に、多元的共生社会の構築という社会的要請に対応しうる力を養う。特に、多元的共生社会へと導くための社会的な理念や現実、その将来的な展望について学ぶ。共生社会論 I において基礎論、共生社会論 II において応用論を学ぶ。

### 「国際学」I A～II B

国際社会の現状についての理論的な局面での理解を深めると共に、開発支援や紛争解決などの具体的な問題に関わる知識を与える。また、日本という存在が世界の中で有している歴史的・文化的位置付けを理解し、今後世界の中で果たすべき役割などの観点から客観的に捉える視座を養う。国際学 I において基礎論、国際学 II において応用論を学ぶ。

「グローバリゼーションと地域社会」I II

グローバルとローカル相互の接触による諸問題がクローズ・アップされる中において、特にこの問題が浮き彫りになっている横浜での実際的な事例を中心にしながら、「思想と人間」「公共社会論」「国際学」「文化学の技法」「異文化理解の技法」などと連動する形で、問題の諸相、ならびにその解決へ向けてのノウハウを学ぶ。

「異文化理解の技法」I A～II B

グローバル化が進展する中、とりわけ日本から世界へ積極的に発信できる能力を有した人材の輩出を念頭に、アジアを始め世界の文化・社会について学ぶ過程で、各国語の高度な運用能力を取得する。異文化理解の技法 I において基礎論、異文化理解の技法 II において応用論を学ぶ。

「社会分析の技法」I A～II B

文化の多様性や共生社会といった分野における理解と実践力を身につけつつ、実社会における即戦力となるべく、社会調査士の資格を取得するための知識と技法を身につける。社会分析の技法 I において基礎論、社会分析の技法 II において応用論を学んだ後、社会調査士の資格を取得する。

②スタジオ科目について

人間文化課程の両コース(芸術文化コース、社会文化コース)では、大学と社会との連携を人文社会系教育においても深め、従来の座学での学びを拡充・補完するために、Y-GSA(横浜建築都市スクール)で活用されている「スタジオ式教育」を参考にした「スタジオ科目」を必修科目として設ける。

人間文化課程における「スタジオ科目」とは、実践的な問題解決能力の充実を図ることを目的としている。大学の教室での講義科目が、理論的な指導を中心にするのに対して、「スタジオ科目」では、実践性に重点を置く。具体的な課題が常に存在し、教員が履修者とともに、その課題に向かって議論を進めながら実現を図る。課題が存在しているのは、実際の社会においてのことであり、「スタジオ科目」は狭い教室に閉じこもることなく、「芸術文化コース」では、横浜市に点在するアート・スポットと協働しながら作業を進めることによって、課題に挑み、「社会文化コース」では、横浜市を中心に課題が存在する実際の場所をフィールドにし、ときには、そこで活動するNPOの人々と協働しながら課題に挑んでいく。こうした「スタジオ科目」では、人間文化課程を担当する常勤教員全員、そして必要に応じて実務家を非常勤講師として交えた複数の教員の指導により、現実社会のフィールドに根ざした学習と実践的プロジェクトを実施していく。「スタジオ科目」は芸術文化コースで常に5科目程度、社会文化コースで常に8科目程度開講され、それぞれのスタジオに各学年12名程度が参加し、実践的な教育が行われる。

現行のマルチメディア文化課程(メディア研究講座)・国際共生社会課程で行われてきた「ワークショップ科目」、および従来は授業科目外のために、教員が指導・援助する「学外活動」のかたちで行われてきた文化・社会活動は、各課程の教育内容と密接に関係し、有益な相互作用を生み出しているが、教育体系において明確に位置づけられていないため、その効果が広く共有されていないきらいがある。人間文化課程においてはこれらの試みを「スタジオ科目」としてカリキュラム化し、従来の座学との往還を可能にするシステムを構築することで、新しい人間文化課程の実践的教育の柱として位置づけなおし、必須科目として一層の充実を図る。半期2単位とする。

従来の専門教育の考え方は異なり、目的意識を大学生生活の早期から高めるために、人間文化課程では「スタジオ科目」を1年次の後期から導入する。そして、各自の関心と目的意識に合わせた履修を、3年次の後期まで続け、これまでの成果を4年次において課題演習・卒業研究として結実させる。こうした集約的効果を上げるため、「スタジオ科目」の履修は累積的に行うものとする。すなわち、「スタジオI(入門)」(1年・後学期)→「スタジオII(基礎)」(2年次前学期)→「スタジオIII(応用)」(2年・後学期)→「スタジオIV(創造的実践)」(3年・前学期)→「スタジオV(創造的実践)」(3年・後学期)。コース選択前の「スタジオI(入門)」(1年・後学期)を除いては、所属するコースの「スタジオ科目」を履修することになる。

芸術文化コースにおいては美術、映像、文芸、音響芸術、批評などの分野にまたがる「芸術文化論」や「現代文化論」での学習を踏まえたスタジオを、社会文化コースにおいては国際交流、多文化共生、地域研究、社会調査・社会分析などを主題とする「共生社会論」や「国際学」、「異文化理解の技法」、「社会分析の技法」での学習を踏まえたスタジオを開設する予定である。

教員と学生が少人数制でインテンシブな作業をする大学院の「スタジオ式教育」とは異なり、人間文化課程の「スタジオ科目」では、学年を縦断する中規模の数の学生を対象とする。また、当然ながら学部生全員が先端的な活動を行えるわけではない。

しかしながら、学年を縦断して継続するプロジェクトに学部段階から取り組むことは、自らの探求意識・問題関心を協同作業のなかで深めるための重要な機会になる。同時に、課題設定から実際の「解決」・「試行錯誤」の積み重ねに至るプロセスから、相互のコミュニケーション能力とリーダーシップを涵養するための価値ある現場にもなる。ともに学生たち自身が立てた問題が、現実の文化・社会の中で別の問題に遭遇し、それらの問題解決のプロセスを実地で学習することができるようになる。

もちろん大学院に進学して、学部レベルの「スタジオ」経験にさらに磨きをかけ、文化・社会に創造的に貢献できる即戦力のメディエーターや、クリエイターになることも可能である。なお、大学院レベルの「スタジオ」を経験した優秀な大学院生は、人間文化課程の「スタジオ科目」においてティーチング・アシスタントとして活用し、「スタジオ」経験の良好な循環も図る。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○〔卒業要件〕 教養教育科目36単位以上、専門教育科目から88単位以上、合計124単位以上を修得し、卒業に関わる授業科目のGPAが2.0以上であり、かつ、卒業審査に合格すること。 (履修科目の登録の上限：48単位(年間))	1 学年の学期区分	2 学期
○〔履修方法〕 [人間文化課程] 教養教育科目 36単位 共通必修基礎科目 10単位 スタジオ科目 10単位 課程間連携共通選択必修科目 16単位以上 芸術文化コース、社会文化コースとも コースの専門選択必修科目 20単位以上 卒業研究関連科目 12単位 他コース選択科目・他課程選択科目 20単位 合計124単位以上修得すること。	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

既設 (地球環境課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間科学基礎科目群	「国際社会」 人間と地球社会	1・2・3・4前		2		○			2	1					オムニバス
	「環境」 環境と化学	1・2・3・4前	2			○				1					
	人間と地球環境	1・2・3・4前		2		○			1						
	環境教育	1・2・3・4後		2		○			1						
	「メディアコミュニケーション」 計算機のしくみ	1・2・3・4後		2		○				1					
	ノンバーバルコミュニケーション (身体表現)	1・2・3・4前		2		○			1						
	芸術表現・コミュニケーション	1・2・3・4後		2		○				1					
	「現代社会」 現代を生きる子ども	1・2・3・4前		2		○			1						
	福祉と生活	1・2・3・4前		2		○			1						
	持続可能社会と教育	1・2・3・4前		2		○			1						
小計 (10科目)	—	2	18	0	—	—	—	8	4	0	0	0	—	—	
人間科学リテラシー科目群	「情報リテラシー科目」 環境情報学	1・2・3・4前	2			○			1						
	環境情報処理	1・2・3・4後		2		○			1						
	情報と文化	1・2・3・4前		2		○			1						
	ネットワークコンピューティングA	1・2・3・4前		2		○				1					
	ネットワークコンピューティングB	1・2・3・4後		2		○				1					
	視聴覚メディア	1・2・3・4後		2		○			1						
	「知識ネットワーク科目」 文化交流の方法と手段A	1・2・3・4前		2		○			1						
	文化交流の方法と手段B	1・2・3・4後		2		○			1						
	アート・マネジメントA	1・2・3・4前		2		○									兼1
	アート・マネジメントB	1・2・3・4後		2		○			1						兼1
	現代社会の読み方A	1・2・3・4前		2		○									兼1
	現代社会の読み方B	1・2・3・4後		2		○				1					兼1
	「環境社会科目」 多元社会の現状A	1・2・3・4前		2		○									兼1
	多元社会の現状B	1・2・3・4後		2		○				1					隔年開講
	国際社会の現状	1・2・3・4後		2		○			1						
学外活動・学外学習 I	1・2・3・4前・後		2				○		1						
学外活動・学外学習 II	1・2・3・4前・後		2				○		1						
教育とメディア I	1・2・3・4前		2		○					1					
教育とメディア II	1・2・3・4後		2		○				1						
小計 (19科目)	—	2	36	0	—	—	—	8	3	1	0	0	兼3	—	
課程コア科目	ワークショップ	2・3・4前・後	2				○		6	3	2				
	地球環境への招待	1・2・3・4前		2		○			8	2					
	地球科学A	2・3・4前		2		○						1			
	地球科学B	2・3・4後		2		○			1				1		
	固体地球科学	3・4前		2		○			1						
	環境生物学A	2・3・4前		2		○			1						
	環境生物学B	2・3・4後		2		○			1						
	生物海洋学	2・3・4前		2		○			1						
	物質環境化学A	2・3・4後		2		○			1						
	物質環境化学B	2・3・4後		2		○			1						
	物質環境化学C	2・3・4前		2		○			1						
	地球環境科学実験 I	1・2・3・4前		2				○	4	1					オムニバス
	地球環境科学実験 II	1・2・3・4後		2				○	3	3					オムニバス
	地球環境科学実験 III	1・2・3・4後		2				○	3	1					オムニバス
	動物生態学	3・4前		2		○			1						
	細胞遺伝学	2・3・4後		2		○									兼1
	環境有機化学	3・4後		2		○			1						
分子構造論	3・4前		2		○				1						
環境電気化学	3・4前		2		○				1						
地球ダイナミクス	3・4前		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	環境複雑系の科学	2・3・4前		2		○												
	植物細胞組織培養論	3・4前		2		○			1	1								
	植物分子生物学	3・4前		2		○				1								
	地球環境学特論ⅠA	2・3・4前		1		○											兼1	
	地球環境学特論ⅠB	2・3・4後		1		○												兼3
	地球環境学特論ⅡA	2・3・4後		1		○												兼1
	地球環境学特論ⅡB	2・3・4後		1		○												兼1
	地球環境学特論ⅢA	2・3・4後		1		○												兼1
	地球環境学特論ⅢB	2・3・4後		1		○												兼1
	地球環境学特論ⅣA	2・3・4前		1		○												兼1
	地球環境学特論ⅣB	2・3・4前		1		○												兼1
	環境化学演習	2・3・4後		2				○		1	1							
	環境生命科学実験	2・3・4後		2					○	1								
	環境生命科学演習	2・3・4前		2				○		2								
	小計(34科目)	—		30	30	0				15	4	2	1	0		兼10	—	
	卒業研究関連	演習Ⅰ	2前	2					○	1								
		演習Ⅱ	3後	2					○	10	5							
		課題演習Ⅰ	4前	2					○	10	5							
		課題演習Ⅱ	4後	2					○	10	5							
		課題実験Ⅰ	3後	2						10	5							
		課題実験Ⅱ	4前	2						10	5							
		卒業研究	4通	4						10	5							
		小計(7科目)	—		16	0	0				10	5	0	0	0			
	選択科目	古環境学	3・4前		2		○			1								
		環境エネルギー科学	3・4後		2		○			1								
		環境と分析化学	3・4前		2		○			1								
		物理学Ⅰ	2・3・4前		2		○				1							兼1
		物理学Ⅱ	2・3・4後		2		○				1							兼1
		物理学概説Ⅰ	2・3後		1		○			1								
		物理学概説Ⅱ	2・3前		1		○			1								
		物理学実験(コンピュータ活用含む)	2・3後		2				○	1	1							
		教職実践演習	4通		2					1								
		環境化学実験(コンピュータ活用含む)	2・3・4後		2					3	2							
		環境生命科学野外実習(コンピュータ活用含む)	2・3・4後		2					1								
地球科学野外実習Ⅰ(コンピュータ活用含む)		2・3・4前		2						1								
地球科学野外実習Ⅱ		2・3・4後		2								1						
生物海洋学臨海実験		2・3・4後		2					1									
化学実験		3・4前		2					3	2								
自然博物館学		2・3・4後		2		○												兼1
博物館実習		4通		2						1								
小計(17科目)	—		0	32	0				8	4	0	1	0		兼3	—		
合計(87科目)	—		50	116	0				25	10	2	1	0		兼16	—		

既設 (マルチメディア文化課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間科学 基礎科目群	「国際社会」 人間と地球社会	1・2・3・4前		2		○			2	1					オムニバス	
	「環境」 環境と化学	1・2・3・4前	2			○				1						
	人間と地球環境	1・2・3・4前		2		○			1							
	環境教育	1・2・3・4後		2		○			1							
	「メディアコミュニケーション」 計算機のしくみ	1・2・3・4後		2		○				1						
	ノンバーバルコミュニケーション (身体表現)	1・2・3・4前		2		○			1							
	芸術表現・コミュニケーション	1・2・3・4後		2		○				1						
	「現代社会」 現代を生きる子ども	1・2・3・4前		2		○			1							
	福祉と生活	1・2・3・4前		2		○			1							
	持続可能社会と教育	1・2・3・4前		2		○			1							
	小計 (10科目)	—	2	18	0	—	—	—	8	4	0	0	0	—	—	
	人間科学 リテラシー科目群	「情報リテラシー科目」 環境情報学	1・2・3・4前	2			○			1						
		環境情報処理	1・2・3・4後		2		○			1						
		情報と文化	1・2・3・4前		2		○			1						
ネットワークコンピューティングA		1・2・3・4前		2		○				1						
ネットワークコンピューティングB		1・2・3・4後		2		○				1						
視聴覚メディア		1・2・3・4後		2		○			1							
「知識ネットワーク科目」 文化交流の方法と手段A		1・2・3・4前		2		○			1						兼1	
文化交流の方法と手段B		1・2・3・4後		2		○			1						兼1	
アート・マネジメントA		1・2・3・4前		2		○			1						兼1	
アート・マネジメントB		1・2・3・4後		2		○			1						兼1	
現代社会の読み方A		1・2・3・4前		2		○				1					兼1	
現代社会の読み方B		1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
「環境社会科目」 多元社会の現状A		1・2・3・4前		2		○				1					兼1	
多元社会の現状B		1・2・3・4後		2		○				1					隔年開講	
国際社会の現状	1・2・3・4後		2		○			1								
学外活動・学外学習 I	1・2・3・4 前・後		2				○		1							
学外活動・学外学習 II	1・2・3・4 前・後		2				○		1							
教育とメディア I	1・2・3・4前		2		○					1						
教育とメディア II	1・2・3・4後		2		○				1							
小計 (19科目)	—	2	36	0	—	—	—	8	3	1	0	0	兼3	—		
専門 教育 科目  課程 コア 科目	情報基礎論	1・2・3・4前	2			○			6	3	1				オムニバス	
	メディア基礎論	1・2・3・4前	2			○			1	1						
	ワークショップ	2・3・4前・後	2			○			6	3	2					
	情報数学入門	2・3・4前	2			○			1							
	言語学A	2・3・4前	2			○				1						
	情報文化論A	2・3・4前	2			○			1							
	リフレッシュ『数学 I・II・III』	1・2・3・4前		2		○			1							
	リフレッシュ『数学A・B・C』	1・2・3・4前		2		○				1						
	線形演習	2・3・4後		2				○		1						
	解析演習	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	有限・離散の考え方	2・3・4前		2			○			1						
	暗号や符号の数理	2・3・4後		2			○			1						
	CG数理	2・3・4後		2			○			1						
	プログラミングA	2・3・4前		2			○			1						
	プログラミングB	2・3・4後		2			○			1						
	プログラミング演習A	2・3・4前		2				○		1						
	プログラミング演習B	2・3・4後		2				○		1		1				
言語学B	2・3・4後		2			○			1							
情報文化論B	2・3・4前		2			○			1							
メディアと芸術A	2・3・4後		2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	メディアと芸術B	2・3・4後		2		○				1					兼1	
	メディアと芸術C	2・3・4前		2		○										
	メディアと芸術D	2・3・4後		2		○					1					
	メディアと芸術E	2・3・4後		2		○			1							
	芸術環境論A	2・3・4前		2		○			1							
	芸術環境論B	2・3・4後		2		○				1						
	芸術環境論C	2・3・4前		2		○									兼1	
	芸術環境論D	2・3・4後		2		○			1							
	マスコミュニケーション論A	2・3・4前		2		○						1				
	マスコミュニケーション論B	2・3・4後		2		○						1				
	マスコミュニケーション論C	2・3・4後		2		○									兼1	
	現代思想を読むA	2・3・4前		2		○				1						
	現代思想を読むB	2・3・4後		2		○									兼1	
	現代思想を読むC	2・3・4前		2			○			1						
	現代思想を読むD	2・3・4前		2			○								兼1	
小計 (35科目)		—	12	58	0				14	8	3	0	0	兼6	—	
卒業研究関連	演習 I	3	2				○		9	7	3					
	演習 II	3	2				○		9	7	3					
	課題演習 I	4	2				○		9	7	3					
	課題演習 II	4	2				○		9	7	3					
	卒業研究	4	2						9	7	3					
小計 (5科目)			10	0	0				9	7	3	0	0			
選択科目	複素数の世界	2・3・4前		2		○									兼1	
	認知科学演習	2・3・4前		2			○			1						
	言語学演習	2・3・4後		2			○			1						
	数理論理学	3・4前		2		○									兼1	
	ネットワークの数理科学	3・4後		2		○			1							
	CG数理演習	3・4前		2			○		1							
	データ解析	3・4前		2		○				1						
	ヒューマン・インターフェース論	2・3・4前		2		○			1							
	アルゴリズムとデータ構造	3・4後		2		○			1							
	計算機シミュレーション	3・4前		2		○			1							
	計画における情報システム	2・3・4前		2		○			1							
	情報システムの構築と運用	2・3・4後		2		○			1							
	知識情報処理	3・4前		2		○			1							
	計算機実習	2・3・4後		2				○			1					
	音韻論	3・4前		2		○			1							
	語の構造	3・4前		2		○				1						
	舞台芸術論A	2・3・4前		2		○									兼1	
	舞台芸術論B	2・3・4後		2		○									兼1	
	舞台芸術論C	2・3・4後		2		○									兼1	
	映像論A	2・3・4前		2		○			1							
	映像論B	2・3・4前		2		○									兼1	
	映像論C	2・3・4前		2		○			1							
	メディアと芸術F	2・3・4後		2		○			1							
	情報と職業	2・3・4前		2		○									兼1	
	計測と制御	2・3・4前		2		○			1							
	総合演習B	2・3・4後		2		○			1							
情報科教育法 I	2・3・4前		2		○									兼1		
情報科教育法 II	2・3・4後		2		○									兼1		
教職論 (経済学部開講)	2・3・4前		2		○									兼1		
教職論 (経営学部開講)	2・3・4前		2		○									兼1		
小計 (30科目)		—	0	60	0				8	4	1	0	0	兼11	—	
合計 (99科目)		—	26	172	0				24	12	3	0	0	兼20	—	

既設 (国際共生社会課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間科学基礎科目群	「国際社会」 人間と地球社会	1・2・3・4前		2		○			2	1					オムニバス	
	「環境」 環境と化学	1・2・3・4前	2			○				1						
	人間と地球環境	1・2・3・4前		2		○			1							
	環境教育	1・2・3・4後		2		○			1							
	「メディアコミュニケーション」 計算機のしくみ	1・2・3・4後		2		○				1						
	ノンバーバルコミュニケーション (身体表現)	1・2・3・4前		2		○			1							
	芸術表現・コミュニケーション	1・2・3・4後		2		○				1						
	「現代社会」 現代を生きる子ども	1・2・3・4前		2		○			1							
	福祉と生活	1・2・3・4前		2		○			1							
	持続可能社会と教育	1・2・3・4前		2		○			1							
	小計 (10科目)	—	2	18	0	—	—	—	8	4					—	
	人間科学リテラシー科目群	「情報リテラシー科目」 環境情報学	1・2・3・4前	2			○			1						
		環境情報処理	1・2・3・4後		2		○			1						
		情報と文化	1・2・3・4前		2		○			1						
ネットワークコンピューティングA		1・2・3・4前		2		○				1						
ネットワークコンピューティングB		1・2・3・4後		2		○				1						
視聴覚メディア		1・2・3・4後		2		○			1							
「知識ネットワーク科目」 文化交流の方法と手段A		1・2・3・4前		2		○			1						兼1	
文化交流の方法と手段B		1・2・3・4後		2		○			1						兼1	
アート・マネジメントA		1・2・3・4前		2		○			1						兼1	
アート・マネジメントB		1・2・3・4後		2		○			1						兼1	
現代社会の読み方A		1・2・3・4前		2		○				1					兼1	
現代社会の読み方B		1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
「環境社会科目」 多元社会の現状A		1・2・3・4前		2		○				1					兼1	
多元社会の現状B		1・2・3・4後		2		○				1					隔年開講	
国際社会の現状	1・2・3・4後		2		○			1								
学外活動・学外学習 I	1・2・3・4前・後		2				○		1							
学外活動・学外学習 II	1・2・3・4前・後		2				○		1							
教育とメディア I	1・2・3・4前		2		○					1						
教育とメディア II	1・2・3・4後		2		○				1							
小計 (19科目)	—	2	36	0	—	—	—	8	3	1				兼3		
課程コア科目	多文化共生論A	2・3・4前		2		○									兼1	
	多文化共生論B	2・3・4後		2		○			1						兼1	
	共生支援論A	2・3・4前		2		○				1					兼1	
	共生支援論B	2・3・4後		2		○									兼1	
	比較文化論	2・3・4前		2		○			1						兼1	
	文化コミュニケーション	2・3・4後		2		○									兼1	
	グローバル・ネットワーキング	2・3・4後		2		○									兼1	
	多元社会の意思決定 I	2・3・4後		2		○			1						兼1	
	文化コミュニケーションの実際	2・3・4後		2		○			1						兼1	
	文化の差異と構造	2・3・4後		2		○				1					兼1	
	文化の交流と変容	2・3・4後		2		○				1					兼1	
	文化の創造と形成	2・3・4後		2		○			1						兼1	
	アメリカの生活と文化	2・3・4後		2		○					1				兼1 隔年開講	
	アメリカの社会構造	2・3・4後		2		○				1					隔年開講	
ヨーロッパの生活と文化	2・3・4後		2		○				1					兼1		
ヨーロッパの政治と社会	2・3・4後		2		○				1					兼1		
アジアの生活と文化	2・3・4前		2		○			1						兼1		
アジアの社会構造	2・3・4後		2		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門 教育 科目	日本の社会構造	2・3・4前		2		○				1								
	多文化共生の実際	2・3・4後		2		○			1									
	差別の構造	2・3・4後		2		○				1							兼1	
	ジェンダーと社会	2・3・4前		2		○												
	東アジアのジェンダーと社会	2・3・4後		2		○			1									
	世代の多元性	2・3・4前		2		○			1									
	環境と人間	2・3・4後		2		○			1									
	身体文化論	2・3・4前		2		○												兼1
	現代社会と健康	2・3・4前		2		○												兼1
	文化環境論	2・3・4後		2		○				1								
	歴史と体験	2・3・4前		2		○			1									
	調査技法A	2・3・4後		2		○			1									
	調査技法B	2・3・4前		2		○			1									
	情報文化論A	2・3・4前		2		○			1									
	言語学B	2・3・4後		2		○				1								
	国際関係論	2・3・4前		2		○												兼1
	国際法	2・3・4後		2		○												兼1
	国際経済論	2・3・4後		2		○												兼1
	体育社会学	2・3・4後		2		○			1									
	マスコミュニケーション論A	2・3・4前		2		○						1						
	生涯学習概論 I	2・3・4後		2		○				1								
	消費生活論	2・3・4前		2		○			1									
	家族関係学	2・3・4後		2		○			1									
	国際交流の実践と発展A	1・2・3・4後		2		○												兼1
	国際交流の実践と発展B	2・3・4前		2		○												兼1
	国際交流の実践と発展C	2・3・4後		2		○												兼1
	国際交流の実践と発展D	3・4後		2		○												兼1
	異文化理解の実践と発展A	1・2・3・4後		2		○												兼1
	異文化理解の実践と発展B	2・3・4前		2		○												兼1
	異文化理解の実践と発展C	2・3・4後		2		○												兼1
	異文化理解の実践と発展D	3・4後		2		○												兼1
	多元性と共生A	3・4前		2		○												兼1
	多元性と共生B	4後		2		○												兼1
社会学概論	3・4前		2		○			1										
日本の歴史と社会	2・3・4前		2		○			1									どちらか一方のみを履	
日本史概論II	2・3・4前		2		○			1									どちらか一方のみを履	
国民国家の現在	2・3・4後		2		○												兼1	
政治学概論	2・3・4後		2		○												兼1	
小計 (56科目)		—	0	112	0	—			14	9	1	0	0				兼16	
卒業 研究 関連	演習 I	3	2				○		15	9								
	演習 II	3	2				○		15	9								
	課題演習 I	4	2				○		15	9								
	課題演習 II	4	2				○		15	9								
	卒業研究	4	2						15	9								
	小計 (5科目)		10	0	0				15	9	0	0	0					
選択 科目	ヨーロッパの歴史と社会	2・3・4前		2		○				1								
	ヨーロッパの古典思想	2・3・4後		2		○			1									
	ヨーロッパの近代思想	2・3・4後		2		○			1									
	イギリスの言語と文化	2・3・4後		2		○											兼1	
	ドイツの言語と文化	2・3・4前		2		○				1								
	フランス語圏の言語と文化	2後		2		○				1								
	スラブの言語と文化	2後		2		○				1								
	キリスト教の思想と文化	2・3・4後		2		○			1									
アジアの歴史と社会	2・3・4前		2		○			1									隔年開講	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 教育 科目	選択科目	東アジアの思想と文化		2		○				1					兼1 不定期開講 兼1 隔年開講 兼1	
		日本の思想と文化	2・3・4後	2		○				1						
		中国の言語と文化	2・3・4後	2		○										
		中国の歴史と社会	2・3・4前	2		○			1							
		現代中国論資料研究	2・3・4前	2		○			1							
		伝統と現代	2・3・4後	2		○				1						
		人文博物館学	2・3・4前	2		○										
		国民国家と地域	2・3・4後	2		○				1						
		植民地体験の諸相	2・3・4前	2		○			1							
		セクシズムとエイジズム	2・3・4前	2		○										
		歴史とジェンダー	2・3・4後	2		○			1							
		宗教と女性	2・3・4前	2		○			1							
		高齢化社会の行方	2・3・4後	2		○			1							
		ユースカルチャーの現在	2・3・4後	2		○			1							
		犯罪と非行	2・3・4前	2		○			1							
		トータル・コンディショニング	2・3・4前	2		○			1							
		国際共生とスポーツ	2・3・4後	2		○			2							
		セクシュアリティ論	2・3・4後	2		○										
		比較思想概論	2・3・4後	2		○			1							
		外国事情を読み解く	2・3・4後	2		○				2						
		共生社会論入門	1・2・3・4前	2		○			2	2						
		アメリカの歴史と社会	2・3・4前	2		○				1						どちらか一方のみを履修可
		世界史概論Ⅲ	2・3・4前	2		○				1						
演習Ⅰ（2年生）	2前	2				○		15	9				教員が違えば重複履修可			
演習Ⅱ（2年生）	2前	2				○		15	9							
小計（34科目）		—	0	68	0	—	—	16	7	0	0	0	兼5	—		
合計（124科目）		—	14	234	0	—	—	35	18	2	0	0	兼11	—		